

# グローバル・ヘルスケア & バイオ・ファンド (為替ヘッジあり)〈愛称:健次(ヘッジあり)〉

# グローバル・ヘルスケア & バイオ・ファンド 〈愛称:健次〉

追加型投信 / 内外 / 株式



グローバル・ヘルスケア&バイオ・ファンド(愛称:健次)  
Morningstar Award "Fund of the Year 2018"  
優秀ファンド賞 受賞  
「国際株式型(グローバル・含む日本)部門」  
詳細はP12をご覧ください。

## ■三菱UFJ銀行からのご留意事項

◎当ファンドは預金ではなく、三菱UFJ銀行は元本を保証しておりません。また、預金保険制度の対象ではありません。◎投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、価格変動リスク等があり、お受取金額が投資元本を大きく下回ることがあります。したがって投資元本および運用成果が保証されているものではありません。◎ご購入に際しては、購入時手数料(3.30%(税込))および保有期間中の運用管理費用(信託報酬)等の費用がかかります。◎ご購入に際しては、必ず最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」および「目論見書補完書面」により商品内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。◎当ファンドをお取引いただくか否かが、三菱UFJ銀行におけるお客さまのほかの取引に影響を与えることはありません。◎当ファンドの購入代金に充当するための借入れを前提とした購入申込みはお受けできません。

## 〔金融商品仲介口座を通じたご購入について〕

●当ファンドは三菱UFJ銀行の投資信託口座のほかに金融商品仲介口座(三菱UFJモルガン・スタンレー証券の証券取引口座)を通じたお取扱いをしております。●金融商品仲介口座を通じたご購入に際しては、あらかじめ三菱UFJモルガン・スタンレー証券の証券取引口座の開設が必要です(金融商品仲介口座の開設をお申込みいただくと、お取引口座は三菱UFJモルガン・スタンレー証券に開設されます)。

ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。投資信託説明書(交付目論見書)は、三菱UFJ銀行の本・支店までご請求ください。

## 投資信託口座を通じたお取扱いの場合

お申込み・販売会社は



株式会社三菱UFJ銀行  
登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号  
加入協会: 日本証券業協会 / 一般社団法人金融先物取引業協会  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

当行の苦情処理措置および紛争解決措置は  
一般社団法人全国銀行協会または特定非営利活動法人証券・  
金融商品あっせん相談センターを利用します。  
全国銀行協会相談室: 0570-017109 / 03-5252-3772  
証券・金融商品あっせん相談センター: 0120-64-5005  
受付時間: 月~金曜日 9:00~17:00(祝日・12/31~1/3等を除く)

## 金融商品仲介口座を通じたお取扱いの場合

お問合せ・ご照会は



株式会社三菱UFJ銀行  
登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号  
加入協会: 日本証券業協会 / 一般社団法人金融先物取引業協会  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

委託金融商品取引業者・販売会社は

三菱UFJモルガン・スタンレー証券

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2336号  
加入協会: 日本証券業協会 / 一般社団法人日本投資顧問業協会  
一般社団法人金融先物取引業協会  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

設定・運用は



三菱UFJ国際投信株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号  
加入協会: 一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会

ともに、その先へ。

# グローバルで拡大を続ける ヘルスケア業界

わたしたちの生活に欠かせないヘルスケア。  
今後、先進国の高齢化の進展や新興国の所得増加、  
バイオ医薬品の発展などにより  
ヘルスケア業界は成長が見込まれ、  
いま、長期的な投資対象としての  
魅力が高まっています。

## ヘルスケア

### ① 先進国の高齢化



## テクノロジーの発展 と 医薬・医療への応用



～1960年代  
レントゲン  
(1895年、X線の発見)



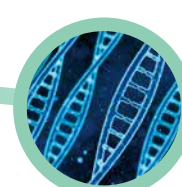
1970年代  
ペースメーカー



1980年代  
MRI



1990年代  
カテーテル



2000年代  
ヒトゲノム計画完了  
(2003年)

## 主なヘルスケア・バイオ産業



### 製薬

大衆医薬品、医療機関向け医薬品の製造・開発企業等



### バイオテクノロジー

遺伝子の分析・研究を基に治療薬等の製品を製造・開発する企業等



### 医療製品

医療機器の製造・開発企業等



### 医療・健康サービス

病院経営、医療品卸、医療保険企業等

# 業界の 3つの成長ポイント

## ② 新興国の所得増加



## ③ バイオ医薬品の発展



## 次世代の医療へ



2010年代  
iPS細胞  
ノーベル賞受賞  
(2012年)



【人工知能(AI)】



【ビッグデータ解析】



【遺伝子治療】

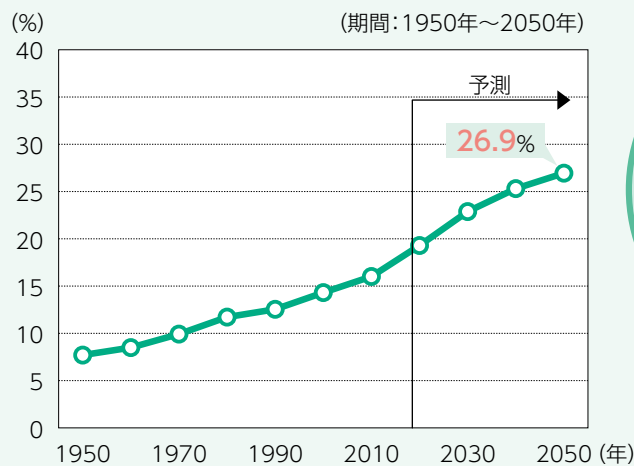


# 1. 先進国の高齢化



先進国では  
医学・医療の進歩等により  
高齢化が進んでいます。

## 先進国の65歳以上の割合

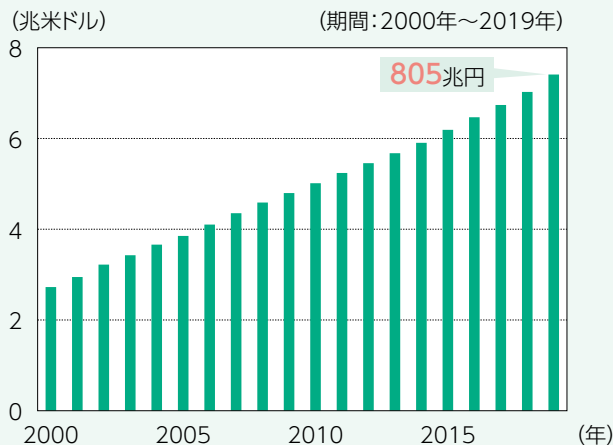


高齢人口の増加

先進国では高齢化が一段と進展し、2040年には4人に1人が65歳以上となる見込みです。

※上記は国連による推計値です。なお、先進国は国連の定義によります。  
(出所) 国連のデータを基に三菱UFJ国際投信作成

## 先進国の年間医療支出



医療費

先進国の年間医療支出は、右肩上がりで増えており、2019年には2000年の約2.7倍となる805兆円になりました。

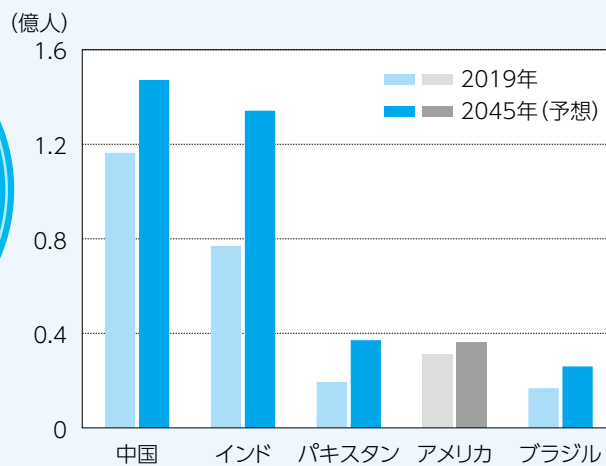
※先進国はOECD(経済協力開発機構)加盟国と定義しています。上記は2020年4月にOECDに加盟したコロンビアのデータは含みません。  
※為替は2019年12月末現在の為替レート(1米ドル=108.61円)で換算しています。  
(出所) OECDのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

## 2. 新興国の所得増加

新興国では  
人口増加による経済成長が  
引き続き期待されます。



### 糖尿病患者数 上位5カ国

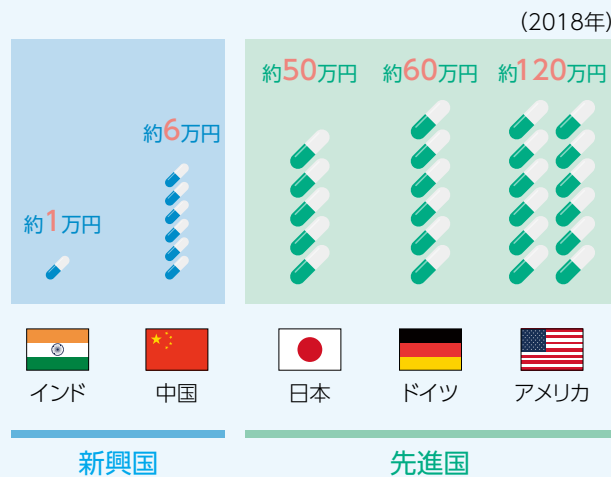


新興国では経済成長に  
ともなう所得の増加により、  
食事などの生活スタイルが  
変化したことで、  
生活習慣病のリスクが  
増大しています。

経済成長にともなう  
所得の増加  
生活スタイルの変化

(出所)国際糖尿病連合(IDF)のデータを基に三菱UFJ国際投信作成

### 1人あたりの年間医療支出



現在、新興国の1人あたりの  
年間医療支出は、先進国に  
比べると少ないですが、  
所得増加等に伴い、  
今後先進国に近づくことが  
予想されます。

※為替は2018年12月末現在の為替レート(1米ドル=109.69円)で換算しています。

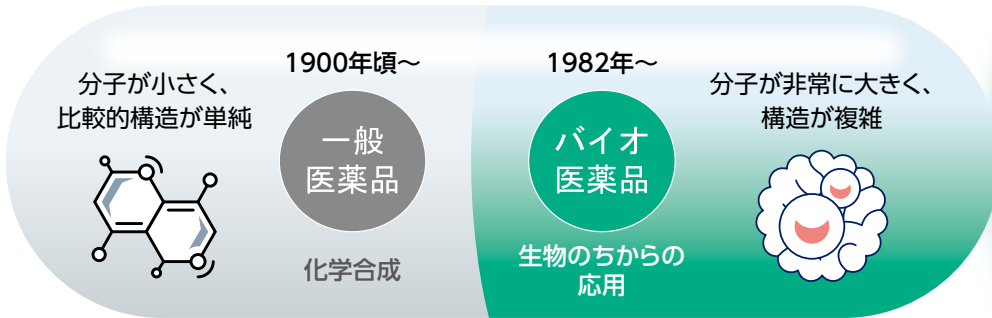
(出所)世界銀行、IMF World Economic Outlook Database October 2020、Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

の拡大



# 3. バイオ医薬品の発展

## 一般医薬品とバイオ医薬品の違い



1900年頃～  
分子が小さく、比較的構造が単純  
**一般医薬品**  
化学合成

1982年～  
分子が非常に大きく、構造が複雑  
**バイオ医薬品**  
生物のちからの応用



化学の進歩によって作られた薬。  
医薬品市場の礎を築き  
市場の拡大をもたらしました。

遺伝子組換え技術や  
細胞培養技術を用いて作られた薬。  
医薬品市場の更なる拡大と充実をもたらします。

## バイオ医薬品の発展に注目する理由

### 新薬の 発見

#### 難病治療等への効果

従来の一般医薬品では治療が困難であるとされた病(がん、リウマチ、肝炎、心筋梗塞、脳卒中)などへの効果が期待できます。

### 将来性への 期待

バイオ医薬品は、もともと人が持っている性質や機能を応用して作るため、既存の一般医薬品より体に優しく、副作用を少なくすることができます。

### 既存薬の 改良 副作用の低減

世界初

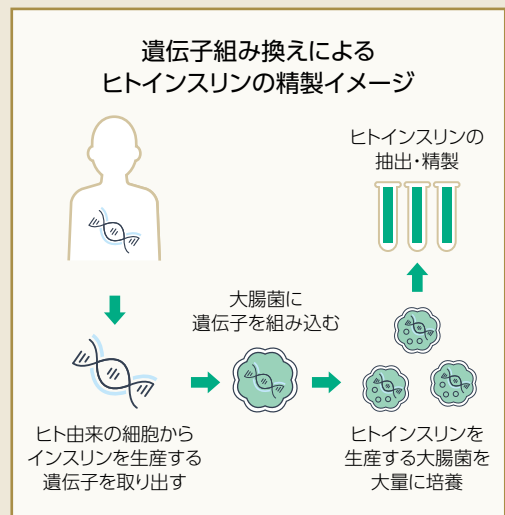
のバイオ医薬品

### 糖尿病治療薬

## ヒトインスリン

インスリンは、すい臓から分泌されるホルモンで、減少すると血液中の糖を正常に吸収できなくなるため、さまざまな障害をもたらします。これが糖尿病です。

糖尿病の種類によっては、患者さんは継続的にインスリンを投与する必要があります。「ヒトインスリン」が開発されたことにより、継続投与が容易になりました。



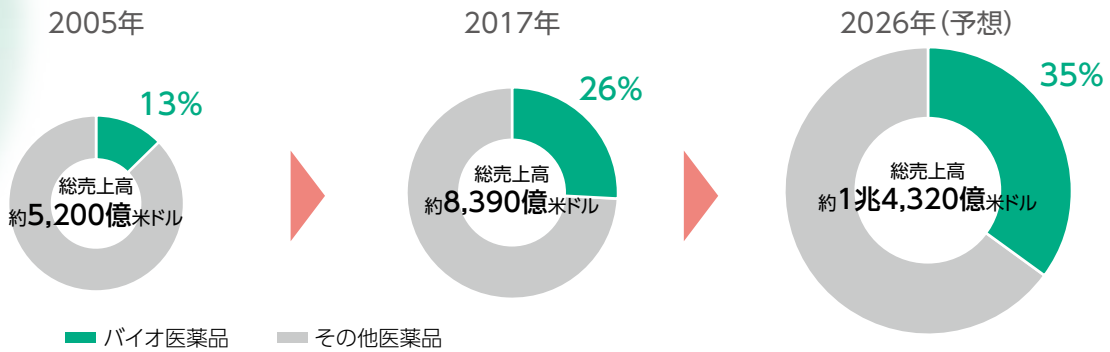
(出所) 各種資料を基に三菱UFJ国際投信作成

・写真、画像はイメージです。  
・上記は、将来の運用成果等を保証するものではありません。

## バイオ医薬品市場の拡大

バイオ医薬品の売上高は、年々増加してきました。  
 今後も難治療分野への展開が見込まれることから、売上高は増加すると予想されています。

### 世界の医薬品売上高とバイオ医薬品の売上高シェア



### 売上高TOP10のうち、主なバイオ医薬品

2005年	2017年	2026年(予想)
第3位：エポジェン (腎性貧血の薬)	第1位：ヒュミラ (関節リウマチの薬)	第1位：キイトルーダ (がんの薬)
第10位：リツキサン (がんの薬)	第2位：リツキサン (がんの薬)	第2位：オプジーボ (がんの薬)
	第3位：エンブレル (関節リウマチの薬)	第8位：デュピルマブ (アトピー性皮膚炎の薬)

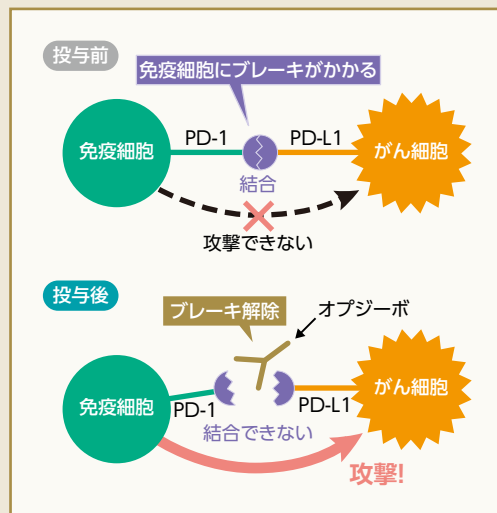
(出所) セジテム・ストラテジックデータ、研ファーマ・ブレーン、EvaluatePharmaの資料、国立医薬品食品衛生研究所ホームページを基に三菱UFJ国際投信作成

ノーベル賞  
 受賞の研究をもとに  
 つくられた  
 バイオ医薬品

### がん免疫治療薬

## オプジーボ

京都大学特別教授・本庶佑氏は、「PD-1」の解明により2018年にノーベル生理学・医学賞を受賞しました。  
 免疫細胞上の「PD-1」というたんぱく質とがん細胞上の「PD-L1」というたんぱく質が結合することで、免疫細胞にブレーキがかかり、がん細胞を攻撃できません。オプジーボは、このブレーキがかからないようにすることで、免疫力を高め、がんを治療する薬です。

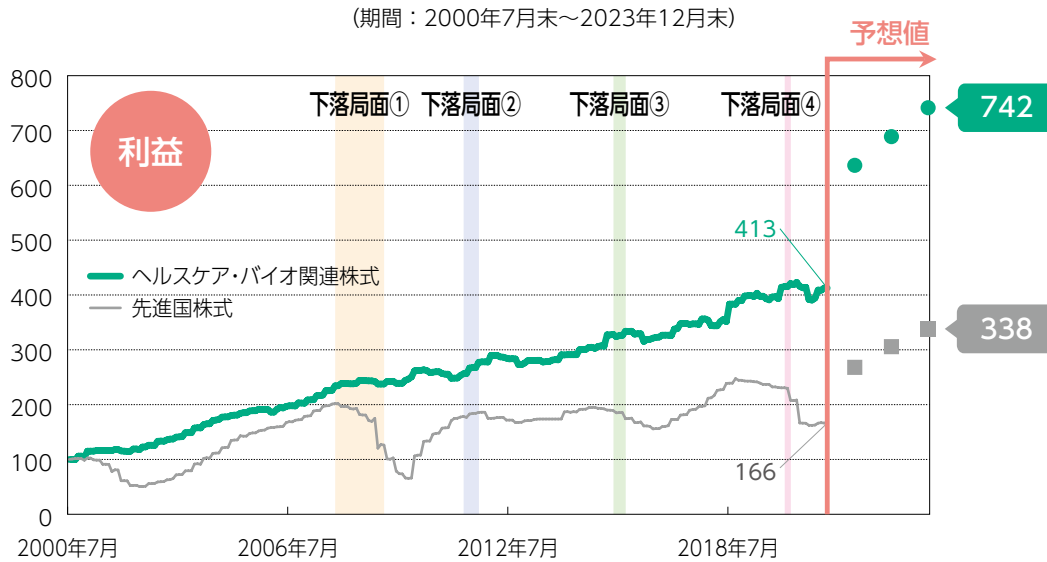


(出所) 各種資料を基に三菱UFJ国際投信作成

# 安定した利益成長

医療関連支出は、人の命や健康に関わるため、景気の影響を受けにくい傾向があります。また、3つの成長ポイントなどを背景にヘルスケア・バイオ関連企業は比較的安定した利益成長を持っています。

## ヘルスケア・バイオ関連企業の一株当たり利益 (EPS) の推移



利益  
株価

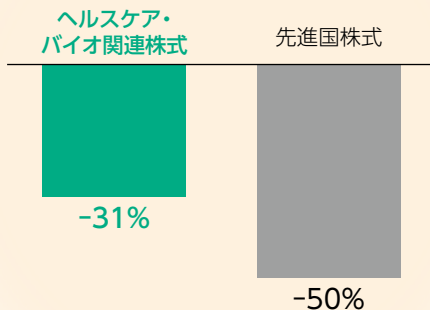


## 株式市場の大幅な下落に対して抵抗力を発揮

先行きに対して不透明感が高まった局面では、ヘルスケア・バイオ関連株式が相対的に優位と

### 下落局面① リーマンショック

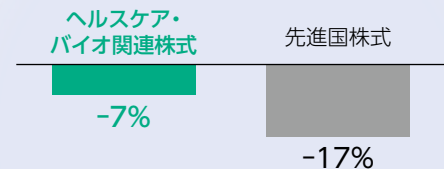
(期間：2007年10月末～2009年2月末)



ヘルスケア・バイオ関連株式は、先進国株式よりも下げ幅が抑えられました。

### 下落局面② 欧州債務危機

(期間：2011年4月末～2011年9月末)



ヘルスケア・バイオ関連株式は、先進国株式よりも下げ幅が抑えられました。

※ 上記は指数を使用しています。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。  
 ※ 各指数のEPS、株価(税引き前配当込み)はともに2000年7月末=100として指数化。  
 ※ EPSはデータ取得が可能な米ドルベースの指数を使用。実績値は2021年3月まで。2021年末、2022年末、2023年末は、2021年3月31日時点でのBloomberg予想値を使用。  
 ※ 株価は現地通貨ベースの指数を使用。

・上記は、将来の運用成果等を保証するものではありません。



# 堅調な株価推移

長期的にみると、ヘルスケア・バイオ関連企業の株価は、安定した利益成長を背景に比較的堅調に推移してきました。

## ヘルスケア・バイオ関連企業の株価推移

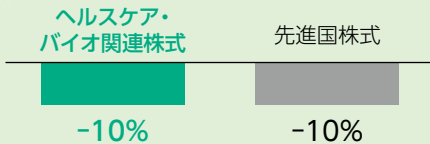
(期間：2000年7月末～2021年3月末)



なる傾向がみられました。

### 下局面③ チャイナショック

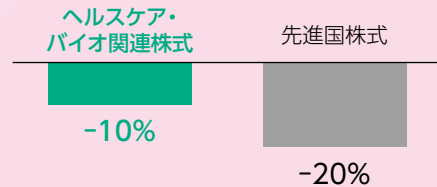
(期間：2015年5月末～2015年9月末)



ヘルスケア・バイオ関連株式は先進国株式の下げ幅と同程度になりました。

### 下局面④ コロナショック

(期間：2020年1月末～2020年3月末)



ヘルスケア・バイオ関連株式は、先進国株式よりも下げ幅が抑えられました。

(出所) Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

# 銘柄紹介

## ユナイテッドヘルス・グループ

国・地域 アメリカ

業種 ヘルスケア・プロバイダー/ヘルスケア・サービス

### 【投資のポイント】

- ・アメリカの大手医療保険会社
- ・2000年代半ばから積極的な買収・合併を行い、アメリカの民間医療保険業界内において包括的に強固なビジネス基盤を有する。高齢化の進展とそれに伴う保険ニーズ拡大を背景に長期にわたり継続的に良好な業績を出しており、今後のさらなる安定成長に期待。
- ・また、同社の特徴としてオプタムと呼ばれる情報技術を活用した医療データ分析などの医療サービスを提供し、膨大な量の顧客情報も差別化要因として注目。関連のテクノロジー投資やシステム導入にも力を入れており、コロナ禍においては同社のオンライン診療プラットフォームが有効活用された。

## ファイザー

国・地域 アメリカ

業種 医薬品

### 【投資のポイント】

- ・アメリカの医薬品メーカー
- ・「ピンダケル」(希少疾患であるアミロイドーシスの治療薬)の売上向上期待や、「プレベナー」(肺炎球菌ワクチン)、「イブランス」(乳がん治療薬)などの適応拡大の治験の進行などへの期待や、がん領域でのバイオシミラー開発なども進み、将来の収益予想も堅調。
- ・特許切れ後発医薬品事業のマイラン(アメリカの後発医薬品大手)への売却が完了し、今後はよりビジネスの軸を革新的な医薬品の研究・開発に集中。
- ・高い技術力を背景に、ドイツのビオンテックと共同で新型コロナウイルスワクチンの開発も主導。新型コロナウイルスワクチンで培った開発技術をインフルエンザなどに応用する研究も開始。

### 【株価推移】



### 【株価推移】



ファンド・マネージャーからのごあいさつ

## 専門性の高い運用チームが有望な銘柄を選定

ロバート・デリジウィッツ MD(学士(医学))

2000年にウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー(以下、ウエリントン)に入社。内科および感染症の医師資格を有し、米国内科学会および米国感染症学会の選出特別会員。

当ファンドは、ヘルスケア株式を投資対象としており、銘柄選定の際に医学・薬学といった高度な専門知識を必要とします。

運用チームには、臨床現場で活躍していた医師をはじめ、看護師資格を持つメンバーや製薬会社出身者などといった経験豊富な人材が揃っており、日々の市場動向の把握や有望企業の見極めに努めています。

また、当ファンドを実質的に運用する米国のウエリントンは、1928年に創業し、世界60カ国以上に展開する資産運用会社です。

運用チームにおけるヘルスケア株式に対する運用実績も充分であり、世界でも最大規模のヘルスケアセクターファンド\*の運用を担当しています。

\*【ヴァンガード・ヘルスケア・ファンド】設定日：1984年5月23日／純資産：約5兆円(1米ドル=103.245円で換算、2020年12月末現在)



## サーモ・フィッシャー・サイエンティフィック

国・地域 アメリカ

業種 ライフサイエンス・ツール/サービス

### 【投資のポイント】

- ・アメリカの科学機器・試薬メーカー
- ・良好なファンダメンタルズに加え、過去の積極的な買収合併により医療研究開発現場の川上から川下に至るまで豊富かつバランスの取れた製品群を有している点を高く評価。
- ・大手製薬メーカーからバイオベンチャーまで、革新的な新薬開発競争が激化する中、同社のようにフルラインナップで研究開発向けに製品を提供できる会社は多くはなく、経営陣の質の高さにも鑑みると今後も成長が継続すると期待。
- ・新型コロナウイルスがきっかけとなりウイルスや病原体に対する検査キットへの需要は今後世界的に高まると予想され、同社にとっては追い風になると見込んでいる。

### 【株価推移】



## アボットラボラトリーズ

国・地域 アメリカ

業種 ヘルスケア機器・用品

### 【投資のポイント】

- ・アメリカのヘルスケア製品メーカー
- ・診断薬・機器、医療機器、栄養剤の各分野において競争力の高い製品群を保有。
- ・同社の成長の牽引役として、ウェアラブル端末を用いた血糖値測定器「FreeStyleリブレ」に注目。
- ・心臓血管外科製品では従来の金属製に代わる、次世代の生体吸収型ステント(カテーテルに乗せ、血管など体内の管状の部分の内側から広げるために使う器具)の開発・普及にも期待。集約化が進む業界内において、セント・ジュード・メディカルの買収による今後の収益拡大期待も成長の追い風となると考える。
- ・5分で新型コロナウイルスの検査が可能な同社の診断機器も、FDA(米国食品医薬品局)の緊急使用許可を取得し米国内で積極的に活用されている。

### 【株価推移】



(出所) ウェリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピーの資料、Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

### ■組入上位10銘柄 (2021年3月末現在)

最新の運用実績は委託会社のホームページ等にてご確認ください。  
組入銘柄数: 73銘柄

順位	銘柄	国・地域	業種	比率	
				健次 (ヘッジあり)	健次
1	ユナイテッドヘルス・グループ	アメリカ	ヘルスケア・プロバイダー/ヘルスケア・サービス	6.6%	6.7%
2	イーライ・リリー	アメリカ	医薬品	5.5%	5.5%
3	ファイザー	アメリカ	医薬品	4.8%	4.9%
4	アストラゼネカ	イギリス	医薬品	4.6%	4.7%
5	ノバルティス	スイス	医薬品	4.2%	4.2%
6	ブリistol・マイヤーズ スクイブ	アメリカ	医薬品	4.1%	4.1%
7	サーモ・フィッシャー・サイエンティフィック	アメリカ	ライフサイエンス・ツール/サービス	4.1%	4.1%
8	アボットラボラトリーズ	アメリカ	ヘルスケア機器・用品	3.4%	3.5%
9	ボストン・サイエンティフィック	アメリカ	ヘルスケア機器・用品	3.2%	3.2%
10	ダナハー	アメリカ	ヘルスケア機器・用品	2.8%	2.8%

※原則として、比率は純資産総額に対する割合です。 ※業種は、GICS(世界産業分類基準)の産業分類で分類しています。

するものではなく、当ファンドにおいて上記銘柄を組み入れることを保証するものではありません。

・税金・手数料等を考慮しておりません。

# ファンドの目的・特色

## ファンドの目的

信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

## ファンドの特色

1

**世界主要先進国市場のヘルスケア・バイオ関連企業の株式を主要投資対象とします。**

◆主なヘルスケア・バイオ産業についてはP2をご覧ください。

2

**財務・収益状況(ファンダメンタルズ)の健全な企業へ長期的な割安度を重視して投資(バリュー投資)を行います。**

◆新商品の開発、企業の合併・統合、政策変更等を背景としたヘルスケア・バイオ市場の変化によってもたらされる投資機会に着目します。

◆銘柄選定は、ヘルスケア・バイオ関連企業の財務データや業績見通しといった株価を動かす基本的な要因を重視した分析(ファンダメンタルズ分析)に基づいて行います。

企業の事業見通し、新商品の見込み、企業戦略、競争性等に重点を置いたボトムアップ・アプローチ\*を行います。

\*【ボトムアップ・アプローチ】投資対象となる個別企業の調査、分析に裏付けられた投資判断をもとに銘柄選定を行い、その積み上げによりポートフォリオを構築していく方法です。

3

グローバル・ヘルスケア&バイオ・ファンド(為替ヘッジあり)

**原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減をはかります。**

◆外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。なお、米ドル建以外の資産については、当該資産の通貨と異なる通貨で為替ヘッジを行うことがあります。

グローバル・ヘルスケア&バイオ・ファンド

**外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。**

4

**株式等の運用にあたっては、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピーに運用指図に関する権限を委託します。**

※運用の指図に関する権限の委託を受ける者、委託の内容、委託の有無等については、変更する場合があります。

5

**年2回決算を行い、収益の分配を行います。**

◆毎年2月27日および8月27日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。

### 収益分配方針

- ・分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます)等の全額とします。
- ・委託会社が基準価額水準・市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。(ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わない場合もあります)

**将来の収益分配金の支払いおよびその金額について保証するものではなく、委託会社の判断により、分配を行わない場合もあります。**

原則として、決算日の基準価額水準が当初元本額10,000円(10,000口当たり)を超えている場合には、当該超えている部分について、分配対象額の範囲内で、全額分配を行います。(資金動向や市況動向等により変更する場合があります。)

## ■ファンドのしくみ:ファミリーファンド方式により運用を行います。

ファミリーファンド方式とは、受益者から投資された資金をまとめた投資信託をベビーファンドとし、その資金の全部または一部をマザーファンドに投資して、マザーファンドにおいて実質的な運用を行う仕組みです。なお、各ファンドはグローバル・ヘルスケア&バイオ・オープン マザーファンドを通じて実質的な運用を行います。

※各ファンドは、グローバル・ヘルスケア&バイオ・オープン マザーファンドのほか、株式へ直接投資することがあります。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

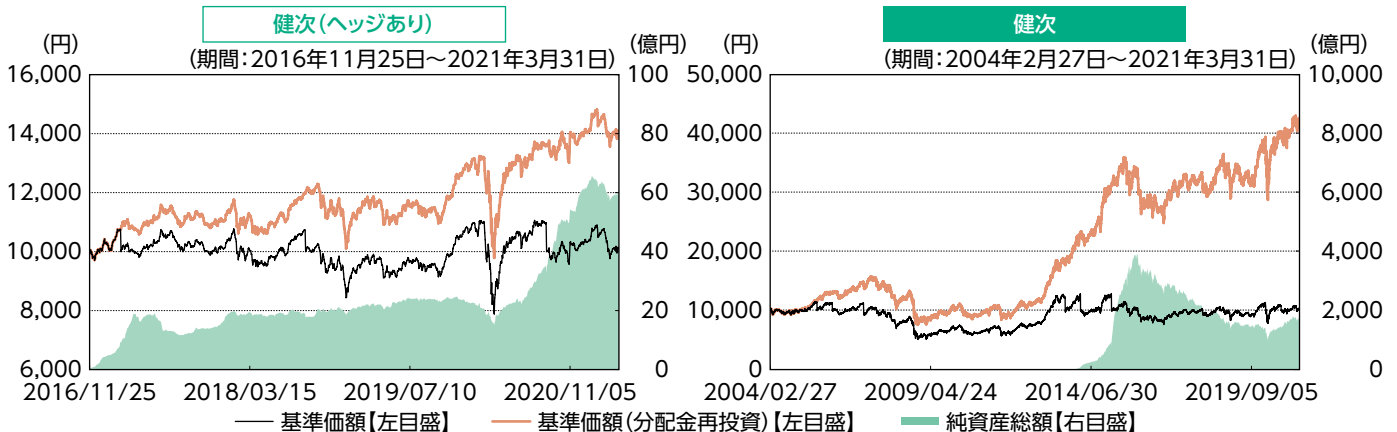


# 運用実績

(最新の運用実績は委託会社のホームページ等にてご確認いただけます。)

2021年3月31日現在

## ■基準価額および純資産総額の推移



## ■分配金実績 (1万口当たり、税引前)

	2021/03	2020/08	2020/02	2019/08	2019/02	2018/08	設定来累計
健次 (ヘッジあり)	221.0円	953.0円	357.0円	0.0円	0.0円	740.0円	3,398.0円
健次	342.0円	795.0円	598.0円	0.0円	0.0円	660.0円	15,322.8円

## ■資産構成

	比率	
	健次 (ヘッジあり)	健次
株式	95.5%	96.8%
コールローン他	4.5%	3.2%

## ■組入上位10カ国・地域

国・地域	比率	
	健次 (ヘッジあり)	健次
1 アメリカ	72.9%	73.9%
2 日本	6.8%	6.9%
3 イギリス	6.4%	6.5%
4 スイス	4.6%	4.6%
5 ベルギー	1.1%	1.2%
6 デンマーク	1.0%	1.0%
7 中国	1.0%	1.0%
8 オランダ	1.0%	1.0%
9 ヨルダン	0.3%	0.3%
10 香港	0.3%	0.3%

## ■組入通貨

	健次 (ヘッジあり)		健次	
	通貨	比率	通貨	比率
1 日本円		97.1%	米ドル	77.6%
2 その他		2.9%	日本円	7.7%
3 -		-	英ポンド	6.8%
4 -		-	スイスフラン	4.6%
5 -		-	ユーロ	2.0%
6 -		-	デンマーククローネ	0.6%
7 -		-	香港ドル	0.6%
8 -		-	-	-
9 -		-	-	-
10 -		-	-	-

## ■組入上位5業種

業種	比率	
	健次 (ヘッジあり)	健次
1 医薬品	33.5%	34.0%
2 ヘルスケア機器・用品	25.6%	26.0%
3 バイオテクノロジー	13.7%	13.9%
4 ヘルスケア・プロバイダー/ヘルスケアサービス	13.4%	13.6%
5 ライフサイエンス・ツールサービス	9.2%	9.4%

※基準価額、基準価額(分配金再投資)は、1万口当たりで運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。

※信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。

※基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

※組入通貨の比率は為替予約等を含めた実質的な比率です。「為替ヘッジあり」の為替ヘッジ相当分は日本円で表示されます。

※四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

※原則として、比率は純資産総額に対する割合です。

※業種は、GICS(世界産業分類基準)の産業分類で分類しています。

※コールローン他は未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。

## グローバル・ヘルスケア&バイオ・ファンド(愛称:健次)



### Morningstar Award "Fund of the Year 2018"

#### 優秀ファンド賞

を受賞しました。

※「国際株式型(グローバル・含む日本)部門」。

Morningstar Award "Fund of the Year 2018"は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2018年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。2018年における国際株式型(グローバル・含む日本)部門は、2018年12月末において当該部門に属するファンド340本の中から選考されました。

Morningstar Award "Fund of the Year 2018"は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスターが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的財産権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びにMorningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。

# 為替ヘッジあり／為替ヘッジなしの選択

## 為替ヘッジありの場合 **グローバル・ヘルスケア&バイオ・ファンド(為替ヘッジあり)**

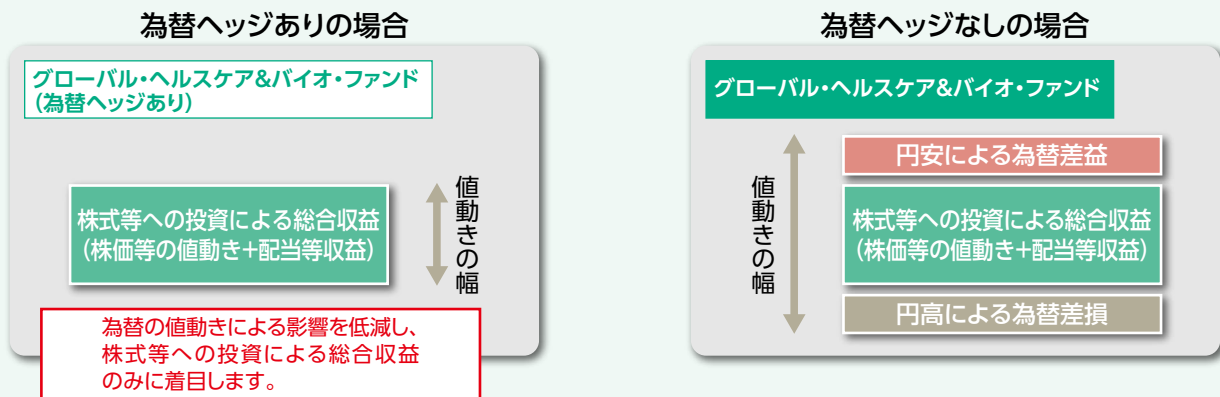
為替予約取引を活用し為替ヘッジを行うことにより、為替ヘッジをしなかった場合と比較して安定した値動きが期待されます。ただし、為替ヘッジにより、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。

## 為替ヘッジなしの場合 **グローバル・ヘルスケア&バイオ・ファンド**

為替ヘッジを行わないため、為替相場の変動による影響を受けます。

また、各ファンドの投資リターンのイメージは、以下のようになります。

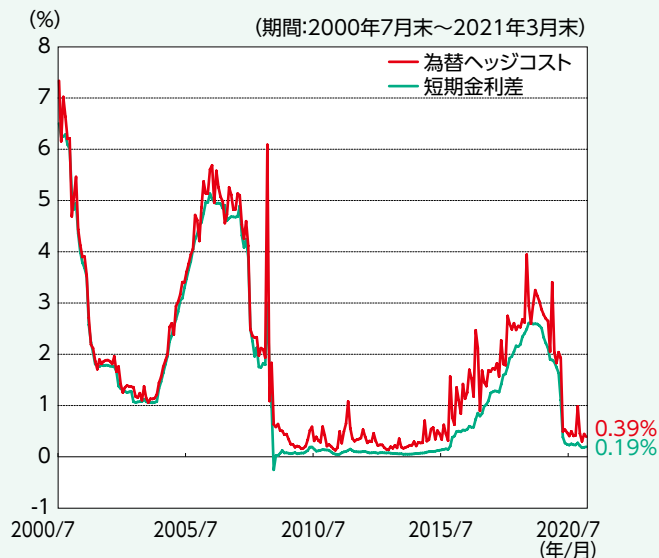
### 〈投資リターンのイメージ図〉



※上記は各ファンドの投資リターンのイメージであり、ファンドの将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。

- 外貨建資産に投資する場合、投資している有価証券の発行通貨が円に対して強く(円安に)なれば基準価額の上昇要因となり、弱く(円高に)なれば基準価額の下落要因となります(為替変動リスク)。
- 為替変動リスクの低減をはかるため、為替ヘッジを行った場合、円金利がヘッジ対象通貨の金利より低いときには、これらの短期金利差に基づくヘッジコストがかかります。なお、ヘッジコストは基準価額にマイナスの影響を与えます。為替市場の状況によっては、金利差相当分以上のヘッジコストとなる場合があります。

### 米ドル円の短期金利差と為替ヘッジコストの推移



※短期金利差は、米国および日本の1ヵ月LIBORを用いて算出しています。

※為替ヘッジコストは、米ドル円の直物レートと先物(1ヵ月)レートから三菱UFJ国際投信が算出したものであり、グローバル・ヘルスケア&バイオ・ファンド(為替ヘッジあり)にかかる実際的为替ヘッジコストとは異なります。

※上記は、2021年3月末現在でマザーファンドにおいて組入比率の高い米国の通貨である米ドルについてご紹介するものです。

(出所) Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

### 米ドル(対円)の推移



・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。



# 投資リスク

## ■ 基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

## 株価変動リスク

株式の価格は、国内および国際的な政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給関係等の影響を受け変動します。株式の価格が変動すれば当ファンドの基準価額の変動要因となります。

## 為替変動リスク

### グローバル・ヘルスケア&バイオ・ファンド(為替ヘッジあり)

ファンドは、主に米ドル建の有価証券に投資しています(ただし、これらに限定されるものではありません)。為替変動リスクが生じます。これら外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減をはかりますが、設定や解約等の資金動向、為替ヘッジのタイミングおよび範囲、ならびに市況動向等の要因により、完全に為替変動リスクを排除することはできません。なお、米ドル建以外の資産については、当該資産の通貨と異なる通貨で為替ヘッジを行うことがあり、この場合には為替変動リスクが生じることがあります。

また、為替ヘッジを行うにあたり、ヘッジコストが発生する場合があります。円金利がヘッジ対象となる外貨建資産の通貨の金利より低い場合、円とヘッジ対象となる外貨建資産の通貨との金利差相当分のヘッジコストがかかることにご留意ください。ただし、為替市場の状況によっては、金利差相当分以上のヘッジコストとなる場合があります。

### グローバル・ヘルスケア&バイオ・ファンド

ファンドは、主に米ドル建の有価証券に投資します(ただし、これらに限定されるものではありません)。外貨建資産に投資を行いますので、投資している有価証券の発行通貨が円に対して強く(円安に)なればファンドの基準価額の上昇要因となり、弱く(円高に)なればファンドの基準価額の下落要因となります。

上記のリスクは主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。

## ■ その他の留意点

- 投資信託(ファンド)の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。なお、分配金の有無や金額は確定したものではありません。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間における当ファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者の個別元本によっては、分配金の一部ないしすべてが、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり幅が小さかった場合も同様です。
- 当ファンドのお取引に関しては、クーリングオフ(金融商品取引法第37条の6の規定)の適用はありません。

## ■ リスクの管理体制

ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っています。また、定期的開催されるリスク管理に関する会議体等において、それらの状況の報告を行うほか、必要に応じて改善策を審議しています。なお、運用委託先で投資リスクに対する管理体制を構築していますが、委託会社においても運用委託先の投資リスクに対する管理体制や管理状況等をモニタリングしています。

### 【当ファンドに投資する際の注意点】

当ファンドは、主に世界主要先進国市場のヘルスケア・バイオ関連企業の株式に投資するファンドです。ヘルスケア・セクターに特徴的なディフェンシブ特性を有する銘柄が多くなるため、特定のセクターの変動による影響が大きくなる可能性があります。したがって、当ファンドの基準価額は、株式市場全体とは異なる動きをする場合があります。

### 【本資料で使用している指数について】

#### ■ 先進国株式:MSCI ワールド インデックス

MSCI ワールド インデックスとは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の先進国で構成されています。

#### ■ ヘルスケア・バイオ関連株式:MSCI ワールド ヘルスケア インデックス

MSCI ワールド ヘルスケア インデックスとは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の先進国の株式のうちヘルスケアセクターに分類された銘柄で構成されています。

各指数に対する著作権およびその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

#### ■ GICS(世界産業分類基準)

Global Industry Classification Standard ("GICS")は、MSCI Inc.とS&P(Standard & Poor's)が開発した業種分類です。GICSに関する知的財産所有権はMSCI Inc.およびS&Pに帰属します。

# 愛称: 健次(ヘッジあり) / 健次

ご購入の際は、投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください。

※三菱UFJ銀行でお申込みの場合

## お申込みメモ

**購入単位**  
分配金再投資コース(累積投資コース):1万円以上1円単位  
購入単位には購入時手数料(税込)が含まれます。再投資される分配金については、1円単位とします。投資信託口座を通じたお申込みの場合は上記以外の購入単位でのお取扱いもございます。くわしくは、三菱UFJ銀行のホームページをご覧ください。

**購入価額**  
購入申込受付日の翌営業日の基準価額  
※基準価額は1万口当たりで表示されます。

**換金単位**  
投資信託口座:1円以上1円単位、または1口以上1口単位、または全部。  
金融商品仲介口座:1口以上1口単位、または全部。

**換金価額**  
換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差引いた価額

**換金代金**  
原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目にお支払いします。

**申込不可日**  
次のいずれかに該当する日には、購入・換金はできません。  
・ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行の休業日

**申込締切時間**  
原則として、午後3時までには受付けたものを当日の申込分とします。

**換金制限**  
各ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。

**購入・換金申込受付の中止および取消し**  
金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。また、信託金の限度額に達しない場合でも、運用規模・運用効率等を勘案し、市況動向や資金流入の動向等に応じて、購入のお申込みの受付を中止することがあります。

**信託期間**  
2029年2月27日まで  
■健次(ヘッジあり)(2016年11月25日設定)  
■健次(2004年2月27日設定)

**繰上償還**  
■健次(ヘッジあり)  
ファンドの受益権の口数が10億口を下回るようになった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。  
■健次  
ファンドの受益権の総口数が、当初設定時の10分の1または10億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。

**決算日**  
毎年2・8月の27日(休業日の場合は翌営業日)

**収益分配**  
年2回の決算時に分配を行います。  
ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少および基準価額の下落要因となります。収益分配金は税金を差引いた後、原則として再投資されます。  
※分配金を再投資せず、お客様の指定口座にご入金するお取扱いを希望される場合は、分配金出金(定期引出契約)をお申込みください。

**課税関係**  
課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人投資者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。  
税法が改正された場合等には、変更となることがあります。

**スイッチング**  
各ファンド間でのスイッチングが可能です。手数料等は、「ファンドの費用」をご参照ください。なお、換金時の譲渡益に対して課税されます。

## ファンドの費用

◎お客さまが直接的に負担する費用

<b>購入時</b>	<b>購入時手数料</b>	購入金額(購入価額×購入口数)× <b>3.30%</b> ( <b>税抜 3.00%</b> )で得た額 ■スイッチングの場合 かかりません。 ※インターネット取引でご購入の場合は、上記手数料率から10%優遇。
<b>換金時</b>	<b>信託財産留保額</b>	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に <b>0.3%</b> をかけた額

◎お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

<b>運用管理費用(信託報酬)</b>	日々の純資産総額に対して、 <b>年率2.420%(税抜 年率2.200%)</b> をかけた額
<b>保有期間中</b>	以下の費用・手数料についても各ファンドが負担します。 ・監査法人に支払われる各ファンドの監査費用 ・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料 ・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用 ・その他信託事務の処理にかかる諸費用等 ※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。
<b>その他の費用・手数料</b>	

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、各ファンドの基準価額に反映されます。毎決算時または償還時に各ファンドから支払われます。  
※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、各ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社

**お客様専用フリーダイヤル 0120-151034**  
(受付時間/営業日の9:00~17:00)  
●ホームページアドレス <https://www.am.mufj.jp/>

受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

株式会社りそな銀行

販売会社(購入・換金の取扱い等)

[投資信託口座を通じたお取扱いの場合]

株式会社三菱UFJ銀行

[金融商品仲介口座を通じたお取扱いの場合]

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

(金融商品仲介業務等を行う登録金融機関:株式会社三菱UFJ銀行)

他の販売会社は、上記の委託会社の照会先でご確認いただけます。

## 本資料に関してご留意いただきたい事項

●本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した販売用資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。 ●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。 ●本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。 ●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。 ●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。